

開陽丸21世紀

維新の触媒だった

開陽丸の史的価値説く『大石教授』

日本学会で『昆布（こんぶ）』の食文化・流通史上の研究者として知られる大石圭一・函館短期大学教授（前・北大水産学部教授）は、さきごろ「明治維新と開陽丸」という紀要論文を発表し、開陽丸の歴史的役割にふれた。そのハイライトを照会しよう。

著者は開陽丸の短い寿命を知って深い同情を示した。示しながら考えた。

開陽丸は神のようなものに命じられてこの世に生を受け、神のようなものに命ぜられるままに動き、沈んだ。

その結果、明治維新を潤滑迅速に成就させた、と思ふ。

開陽丸は「歴史の触媒だったのではなからうか」というのが私の見解である。

「触媒」とは化学の言葉でAからBに進む化学反応では「触媒」があると化学反応を早くするが、「触媒」は反応の後先には顔を見せない。

開陽丸は歴史の上に派手な動きは見せなかった。しかし、客観的に見ても慶応

から明治への移り変わりを早めた。早めるにあたって開陽丸は自分の働きを見せなかった。

しかし、開陽丸がいたことにより、慶応から明治への移り変わりが滑らかに、早くなったのである。

幕末、鳥羽伏見の戦いの後に、徳川家臣団は大阪城に立て籠もり薩長軍と戦おうとしていた矢先、総大将の徳川慶喜が密かに開陽丸に乗船、急拠江戸に立ち帰ってしまった。

残された徳川軍団は地団駄を踏み、悔しがったという。こうして、第一次大坂冬の陣を回避したのであるが、もし大坂に開陽丸が停泊していなかったら、將軍は江戸に帰ると言わなかったろうし、第一次大坂冬の陣

は避けられなかったであろう。

第二次戦では薩長軍が勝つとは限らぬし、明治維新は無かったかもしれない。

大坂港に停泊していたのは開陽丸の戊辰戦争の第一の功績ではあるまいか。

開陽丸青少年センター（管理棟）と復元開陽丸



発行者

開陽丸青少年センター

・開陽丸友の会

北海道江差町字姥神町

〒013-9502 五五二二

また開陽丸は幕府の徹底抗戦派を北海道に移した。

新政府軍は幕府抗戦派を追い、北関東に進出したのであるが、抗戦派はあちこちに散開して、新政府軍にとって物騒の上もなかった。

「以下省略。『函館短期大学紀要第23号』より抄録。文責新聞編集部に在り」

ここで榎本は、幕府抗戦派をまとめて開陽丸に乗せ、さらに仙台湾でも奥羽地方の戦いで敗れ、逃げ場を失った幕軍兵士を北海道に運んだ。

榎本は誰のために開陽丸を動かしていたのだろうか。また勝海舟の気はどんなであったらうか。

「以下省略。『函館短期大学紀要第23号』より抄録。文責新聞編集部に在り」

江差左での十士万士威二二



開陽丸は明治元年十一月十五日、江差沖で座礁沈没してしまった。

そのころ、松前から浜路江差に向かって進撃中の、土方歳三の軍勢は、予想を超えた松前藩兵の抵抗に遭いながらも辛うじてこれを撃破し、江差に到着したのは翌十六日であった。

榎本と土方の二人は眼下で、嵐の中で、もがいていた開陽丸を見て、ままたらぬ運命に歯きしりをしながら呟やいた。

「釜さん、悔しいのう……」
無念さは並んで立っていた榎本も同じであった。

幕末、新しい世界を北方に賭けた二人は、男泣きに泣き続けた。

『イラスト』は
新選組アニメの新進気鋭の清水理絵さん（日立市多賀町五の九の一七）が、この状況を描いたもの。

『碧血の賦：銀嶺をこえて』が出版されている。

◆新聞題字「開陽丸」の解説◆ 開陽丸の命名式が、一八六四年十一月にオランダの造船所で行われた。

このとき、留学生の代表・内田恒次郎が、墨痕鮮やかに「開陽丸」と三字を書き上げた。その字体である。

YOKOSO

開陽丸艦長・沢 太郎左衛門の曾孫である樋口恵さん（東京都渋谷区在住）ら四人が、曾祖父の足跡を訪ねるため先般江差町の開陽丸を訪れた。船内に入り、艦長室にいる曾祖父の人形と、しばし対面し感慨に耽っていた。

「ヤー 伝えられている風貌にそっくりだね。」

「曾祖父がこんな形で執務していたのでしょね。」等と。その後、霧雨のなか甲板に登り船橋近くで、指揮をとったであろう曾祖父の面影を、思う存分憶んでいた。

（今回、来町された曾孫の四名は、太郎左衛門の長男・鑑之丞氏（海軍技術中将）の長男・鑑治氏（三井物産）の、次女樋口恵さん・三女岡村愛さん・五女津田滋さんと、鑑治氏の弟の長女須藤元枝さんの四名でした。）

開陽丸を失ったあと、沢太郎左衛門は榎本政権下で開拓奉行となり室蘭に赴き、蝦夷地の開拓の任に着いたのである。今日の、北海道開拓の隠れたパイオニアでもあった。

沢艦将の曾孫ら...

徳島版・戊辰の夢

開陽丸ただ一度の海戦

開陽丸に追いつめられ、翔鳳丸は自爆した（前方の島の右側）



（徳島県・由岐町 宮内 薫氏提供）

読売新聞徳島版 1999年(平成11年)1月10日(日曜日)

阿波沖海戦の紹介板設置

明治維新、近代日本の命 春日丸に追隨していた輸送運を決めた戊辰戦争に由岐船「翔鳳丸」は、由岐港内町がかかわっていたことをに逃げ込み、笠野島の島影住民に知ってもらおうと、で自爆した。

同町教育委員会は、同町西史跡紹介ではこれらの海由岐の城山（標高40才）の艦の経緯と解説に加え、軍広場に、「阿波沖海戦」の史跡紹介板（縦一・八才、横一・二才）ステンレス製も表示されている。

紹介板は由岐海岸と海戦場所となった笠野島が作った。

戊辰戦争と由岐の関係解説

一八六八年一月、京都で鳥羽・伏見の戦いが始まった歴史解説と観光PRにもなると町では期待している。

と薩摩藩軍艦「春日丸」が、日本初めての洋式軍艦による近代海戦を由岐沖で展開。沖合からのすさまじい砲声に村人は右往左往したという。

春日丸は鹿兒島方面へ敗走。追う開陽丸も南下し、見直す契機になれば」と話している。



来館者の声を紹介

甲板に感心感激

首都圏・男性

「追分流れるロマンの町」は、私の憧れの的でした。首都圏の慌ただしい生活を離れてやって来て、開陽丸の前に立ったときには、そのどっしりとした存在に感動しました。 また

「開陽」というのは、太陽が姿を現す前のまだ暗い「夜明け前」という意味と聞いていたので、なるほどなあと、改めて考えました。時代に対して「前向き」というより「切なさ」を感じました。とにかく甲板のホンモノの板は魅力的です。真実の船」という印象でした。

大砲いじりたい

東北・高校生

船内の展示物：ハンモックはとても面白かった。

大砲に弾を入れるのも、自分でやりたかったが、できなくて残念だった。体験ができるものが、もっともっと沢山つくってほしい。

子供もゴキゲン

岡山県・主婦

榎本武揚らオランダ留學生（幕末）に興味をもっておりまして、それがここでハッキリ系統づけられた知識になりました。

子供たちも気に入って、一時間以上も遊びました。でも、もう少し遊具があれば（屋外でも）、自分はゆっくと勉強ができたと思います。

本物の大砲などの展示が良かったです。

◆ 事務局からお願い ◆
この欄について、「希望」意見等の「投稿を、お待ちしております。」